

ポンプの取扱いについて、概要を示します。

機種によって一部異なる点もありますので、本冊子の各機種のページと、各機種の取扱説明書を合わせてご確認ください。
誤った使い方をされますと事故の原因になります。

5-1. 安全について

各機種の取扱説明書に「安全上のご注意」を記載していますので、ご確認ください、安全にご使用ください。

1) ろ過装置の安全に関する注意事項

- ろ過装置を上水以外で使用しないでください。
- 吸い込み事故防止のため、吸い込み金物は設置する吸込金物の仕様を確認し、必ず、必要数を取り付けてください。(最低 2 個以上)
- 逆洗・洗浄排水は間接排水としてください。また、ろ過流量と同流量になりますので、マスが溢れないよう配慮してください。
- ヘアーキャッチャーの清掃は毎日行うこと。
- 1 週間に 1 回以上、ろ過器を十分に逆洗浄して汚れを排出するとともに、ろ過器及び循環配管について適切な消毒方法で生物膜を除去すること。
- 浴槽に気泡発生装置等を設置している場合は、連日使用している浴槽水を使用しないこと。
- 打たせ湯及びシャワーには、循環している浴槽水を使用しないこと。
- 浴槽は毎日完全換水して浴槽を清掃すること。ただし、これにより難しい場合にあっては、1 週間に 1 回以上完全に換水して浴槽を清掃すること。
- 浴槽水の消毒に用いる塩素系薬剤の注入又は投入口は、浴槽水がろ過器に入る直前に設置されていること。
- 浴槽水の消毒に当っては、塩素系薬剤を使用し、浴槽水中の遊離残留塩素濃度を頻繁に測定して、通常 0.2 ないし 0.4mg / L を保ち、かつ、遊離残留塩素濃度は最大 1.0mg / L を超えないよう努めること。また、当該測定結果は検査の日から 3 年間保管すること。
- 消毒装置の維持管理を適切に行うこと。
※1 薬液タンクの薬剤の量を確認し、補給を怠らないようにすること。
※2 注入弁のノズルが詰まっていたり、空気をかんだりして送液が停止していないか等、送液ポンプが正常に作動し薬液の注入が行われていることを毎日確認すること。
※3 注入弁は定期的に清掃を行い、目詰まりを起こさないようにすること。
- 原湯を貯留する貯湯槽 (以下「貯湯槽」という。) の温度を、通常使用状態において、湯の補給口、底部等に至るまで 60℃以上を保ち、かつ、最大使用時においても 55℃以上に保つ能力を有する加温装置を設置すること。それにより難しい場合には、レジオネラ属菌が繁殖しないように貯湯槽水の消毒設備が備えられていること。
- 毎日完全に換水している浴槽水は、1 年に 1 回以上、連日使用している浴槽水は、1 年に 2 回以上 (ただし、浴槽水の消毒が塩素消毒でない場合には、1 年に 4 回以上)、水質検査を行い、その結果は検査の日から 3 年間保管すること。

水質基準

- 濁度は、5 度以下であること。
- 過マンガン酸カルシウム消費量は、25mg / L 以下であること。
- 大腸菌群は、1 個 / mL 以下であること。
- レジオネラ属菌は、検出されないこと。(10cfu / 100mL 未満)

上記水質基準は「公衆浴場における衛生等管理要領等の改正について」 健発第 0214004 号 平成 15 年 2 月 14 日より引用

上記の 4)～13) は「公衆浴場における衛生管理要領等の改正について」 健発第 0214004 号 平成 15 年 2 月 14 日より引用

5-2. 据付について

詳細については、取扱説明書をご参照ください。

- ポンプ、ろ過装置がお手元に届きましたら、ご注文どおりのポンプ、ろ過装置・付属品かご確認ください。
また輸送中に破損した箇所がないか、塗装のはがれなどが、ボルト類の緩みがないかご確認ください。
もし不具合な点がございましたら、ご注文先にご連絡ください。
- 搬入に際しては、重量・重心を考慮して行ってください。
- 据付までの保管期間中に、ポンプ、ろ過装置に錆が生じないようにご注意ください。
- 据付後、ポンプ、ろ過装置の点検・修理などの作業ができるよう、周囲に十分なスペースを確保してください。
- 基礎はポンプ、ろ過装置の重量と回転時の振動、荷重に耐える十分強固なものとしてください。また、基礎上面は水平になるようにしてください。基礎上面が水平でない場合は、金クサビ等で機器を水平にしてください。
排水ポンプを軟弱な地盤や泥沼に直接据付けて運転しないでください。ポンプが沈下し、ポンプ内や配管等に土砂等が詰まって運転不能になります。
- ポンプ、ろ過装置本体に配管の荷重がかからないようにしてください。ポンプ、ろ過装置の故障や破断、振動の原因となることがあります。
- ばね防振架台を使用する場合、防振材をポンプ重心位置を中心として均等に設置し、ポンプが水平状態となるようにしてください。
- ポンプは工場では調整して出荷していますが、据付終了時再調整してください。
- 感電防止のため、必ずアース線を取り付けてください。
- ポンプの 1 次側電源には必ず、漏電遮断機と過負荷保護装置を設置してください。
電気配線・配線工事は電気設備基準や内線規定に従って安全・確実に行ってください。
- 排水ポンプ自動式の場合、フロートスイッチに直接流入水がかからないように注意してください。(図 71 を参照ください。)
自動運転が不確実になり、空気の吸込、空運転の原因になります。
- 排水ポンプ流入水がポンプの吸込口付近に接近しないよう、流入管口径の 5 倍以上の距離を保ってください。
- 着脱装置付排水ポンプの場合、ポンプ部取出しに必要な寸法 (最大径φW) を外形寸法図に記載していますので必要開口を設置してください。

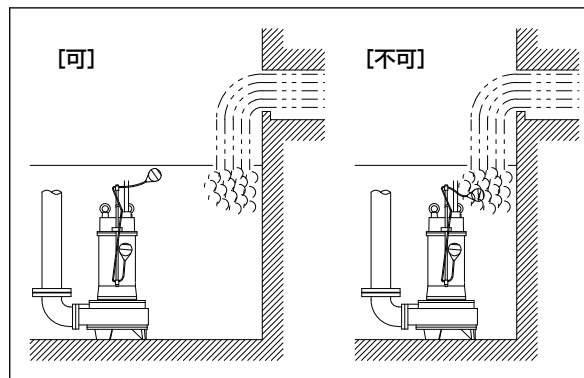


図71

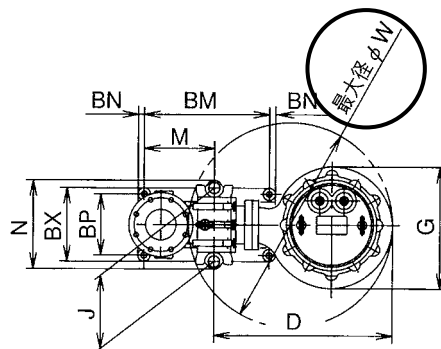


図72